

## コラム “ティータイム”

小 野 威

昨年の関東甲信越地区計量団体連絡協議会で提案議題として取り上げられた計量グラスの導入に関しては、関ブロ代表者会議で委員会の立ち上げが承認され、10都県から10名の委員が選定され私が委員長として2月29日に第1回委員会を開催しました。委員会の詳細は神奈川県計量士会のホームページに掲載されておりますのでご覧ください。計量グラス（計量線入り）はドイツ等では多くのレストラン等に導入されております。日本での計量グラスの導入は日本の消費者等に計量の大切さの意識を持ってもらうことを大きな目的としており、ビールメーカーやレストラン・居酒屋等に導入を働きかけていくことにしておりますので、皆さんの幅広いご理解とご支援をお願いいたします。

前回のコラム”ティータイム“で日本の将来が心配になるような基礎杭打ちや耐震ゴムのデータ偽装、橋梁の耐震偽装工事、廃棄食品の転売等品質の問題を取り上げ “品質管理の重要性について” 述べておりますが……。今回は最近大きな問題となっている自動車の燃費データの改ざん・偽装について述べてみたいと思います。

三菱自動車（株）の燃費データの改ざん・偽装は非常に多くの問題を含んでおり、計測器や計量器等の測定手段では解決できない問題だと思われま。燃費データを測定する計測器が正しく管理・使用され、精度等も維持管理されていたとしてもデータの改ざんや偽装が会社の組織がらみで行なわれており、仮にそこに良心があるの人がいたとしても防ぐことは出来ないこととなります。これらはその時の正しい測定データが別の環境データや条件（基準値等）と組み合わせて作成され報告されており人間の思惑や意志が入り込んでデータの改ざんや偽装が行なわれております。ドイツのホルクス・ワーゲンは排ガスデータの問題によって大きく業績が悪化し、賠償問題にもなってきましたが、このような現実を知りながら三菱自動車（株）は燃費データの改ざんや偽装はホルクス・ワーゲンの排ガスの問題とは違うと思ってきたのでしょうか。企業姿勢は全く同じであると思われま。三菱自動車（株）は過去にも多くの問題を起こしており企業体質は全く変わっていません。燃費データの改ざんや偽装は日産自動車（株）の指摘によって発覚し三菱自動車（株）は日産自動車（株）に買収（非常に安い金額？）されることになりましたが、今後も三菱自動車（株）の企業体質は変わることが無いかもしれませんね。

計量業界において、計量・計測器の製造や制度の維持管理等に計量士が幅広く活躍しており、一般的には計量・計測に使用される機器類は正しいものであり且つ正しく使用されているものと思われており、その測定結果やその結果によって生じる値段等も正しいものとして社会に浸透しております。計量・計測の計器類が正しく維持管理されていたとしても、計量・計測に携わっている人が意図的に測定結果のデータを改ざんしたらそれを防ぐことは出来ないと思われれます。計測器類の問題ではなく人間としての資質の問題でありますので、現状では防ぐことは出来ません。計量に携わっている計量士としては常に責任と自覚を持って計量・計測の測定結果を重視していかなければなりません。今後このことを忘れることなく計量士としてしっかりと自覚と責任を持っていくことが重要と持っておりますが・・・・皆さんはいかがお考えですか？

(第42号：2016年6月13日)